

白川町総合計画審議会 会議録（第3回）

1. 開催日時 令和2年2月27日（木） 午前9時30分 開会
2. 開催場所 白川町役場 分館大会議室
3. 出席委員
- | | | | |
|-----|---------|-------|---------|
| 会 長 | 竹内 治彦君 | 副 会 長 | 細江 茂樹君 |
| 委 員 | 藤井 宏之君 | 委 員 | 佐伯 好典君 |
| 委 員 | 服部 圭子君 | 委 員 | 加藤 邦之君 |
| 委 員 | 田口 和義君 | 委 員 | 古田 文英君 |
| 委 員 | 山中 剛彦君 | 委 員 | 鈴村 雄二君 |
| 委 員 | 今井 和秀君 | 委 員 | 山田 真吾君 |
| 委 員 | 小栗 敏弘君 | 委 員 | 安江 万美子君 |
| 委 員 | 福田 喜美子君 | 委 員 | 岡本 保則君 |
| 委 員 | 後藤 茂巳君 | 委 員 | 塩月 祥子君 |
4. 欠席委員 委 員 浅井 長可君 委 員 内藤 敬子君

5. 説明のために出席した者の職氏名

町 長	横家 敏昭君	副 町 長	佐伯 正貴君
教 育 長	鈴村 雅史君	総務課長	安江 章君
企画課長	長尾 弘巳君	町民課長	安江 文郎君
保健福祉課長	杉山 哉史君	農林課長	三宅 正仁君
建設環境課長	藤井 勝則君	教育課長	藤井 寿弘君
議会事務局長	大岩 裕樹君	会計管理者	藤井 充宏君
林業専門監	中島 太君		

6. 職務のために出席した者の職氏名

企画係長	鈴村 幸祐	企画係主査	山下 直紀
未来デザイン研究部	佐伯美智代	未来デザイン研究部	高谷 聡美
OKB総研	渡邊 剛		

7. 会議の経過

企 画 課 長 開会する旨を宣告し、あいさつした。（午前9時30分）

会 長 あいさつした。

町 長 あいさつした。

【協議事項】

（1）町民アンケートの結果について

会 長 （1）町民アンケートの結果について事務局に説明を求めた。

鈴村係長 資料により説明した。

OKB 渡邊主任 別紙により説明した。

会 長 質疑を許した。
服 部 委 員 男女別の満足度や将来に向けての思いのようなものはこのアンケート集計の中で確認することはできるでしょうか。

OKB 渡邊主任 データとしては男女別あるいは職業別などの属性での集計はできますので、その結果をお示しすることは可能です。

全体でいきますと、医療とか福祉というところになりますし、子育て世代であればご自身の一番興味のある分野へのご関心が高いというような結果になっております。

会 長 受益者的な立場で言えば、世代別に一般的に見られる要望があったというところでは。

ただ、将来のまちを構築するという意味では、共同参画者としてどうしていくかという視点はしかるべきなのかなと思います。そういう点では8年後の姿というところで、企業誘致の必要性が、50代、60代の方から多いというようなところは、今見るべき視点なのかなとも思います。

(2) 町民サロンの進捗状況について

会 長 (2) 町民サロンの進捗状況について事務局に説明を求めた。

鈴 村 係 長 資料により説明した。

未来部佐伯氏 別紙により説明した。

未来部高谷氏 別紙により説明した。

会 長 質疑を許した。(質疑なし)

(3) 総合計画・総合戦略の体系について

会 長 (3) 総合計画・総合戦略の体系について事務局に説明を求めた。

鈴 村 係 長 資料により説明した。

塩 月 委 員 町民アンケートと意見出しの説明を伺いましたが、竹内会長からは町の方針が骨になっていくということ、事務局からは町民の意見というか、アンケートとかサロンなどの生の声を中心に盛り込んでいくということで、少し差があると感じましたが、その辺りはどういう形で進んでいくのでしょうか。

会 長 白川町がどんな8年後を目指すかという場合に、やはり歳入をどう確保するのか、町が持続可能なのかということをもっと真剣に問わないと駄目ではないかと思います。歳入とか町の事情それから歳出がどういう構造になっているのかという情報なしに、町民の皆さんに意見を伺って、意見を出していただいて、それを基に総合計画ができるかといったら、僕はできないと思います。相当厳しいと思います。

歳入はこれから減っていく、地方税と言うよりは、地方交付税交付金が

ベース、つまり国からの配分が歳入の基本であるという状況だというふう
に伺っています。

産業人口も流出している、特に生産年齢人口の流出があります。

インフラ、道路がある橋がある、建物があり、これこそ維持していか
ないといけないのです。

歳出は固定的な費用として、町の財政にしっかりと残っていくはずで
す。

そういったものをどうしていくのかということを見ると、私が関わ
っているある町は、自治会館を全て廃止するという提案を今年から始めて
います。町として維持できないということで、自治会に話をすると反対さ
れるのは決まっているけれど、これは出すしかないという形で提案をし
ています。

岐阜県全体に非常に厳しい状況です。人口流出があり、産業の一部集
中という形がある中で、一体こののち町を、白川町としてどうやって維
持すべきか。岐阜県の人口問題の研究会で佐藤前副町長と会ったとき僕
たちが提案したのは生業がないと住む理由がない、地方に生業を作りま
しょうということでした。食べていけなかったらそこになにもないとい
う話をしました。

自治体も同じだと思います。白川町が持続するためには白川町としての
生業とは何かと、税収はどうやって確保するかという議論なしに、8年は
描けますかというところがあって、事務局さんが提案されている部分とし
てこれ8年後の生業をどこまで真剣に考えられてこのベースになっている
のかなという点で頼りないなという感じがいたします。

生業を作れなかったらやっぱり町として持続不可能です。環境的な面
での理想的な部分がすごくありますが、地域が成り立つためには経済的自
立性がないと成り立たないというのがベースにあると思っています。

これから8年先の白川町を見渡すのであれば経済的な自立可能性とい
うものはどこにあるのかということを見通しなしには、何も議論がで
きません。その場面で要望を聞いていても仕方がないということです。

これはフィンランドの方に教わったのですが、受益者民主主義が強
くなって、民主主義は弱体化していると。参加型の民主主義でない
と駄目で共同で作る。自分たちでここは作っていく、というような部分
がないとこれからは成り立たないと思います。高度成長の時代とは違
いますから、今の日本はどちらかというと人口構成上支出が多くなっ
ているという状況の社会です。

だから先ほどの塩月さんのご質問にお答えするとしたら、僕は町民の皆

さんの意見をベースにしてできないでしょうというものです。歳入と歳出のビジョンをもとにして、町民の皆さんの意見がどこに比重があるのかということが参考にできるけれども、やっぱりベースとしては、町としての基本的な歳入と歳出についての8年を見通したビジョンをベースにしてしか考えられないのではないですかというのが僕の基本的な考え方になります。

私は今年4自治体の総合計画の策定に関わりましたが、どの自治体も歳入と歳出から考えられる基本的なことをベースとして持っているものがあります。

それは人口構成上これだけの支出は必ずあるというそういう読みが絶対ありますから、フリーハンドでできるものがどれぐらいあるのっていうと実はものすごく小さいということです。

その中で何とかやりくりをしていこうというところですから、そんなに夢のある状況でもないということです。

だからこの会議として8年を見渡すということであれば、本当にそこは真剣に考える必要があると思いますし、そこをベースにして、総合計画を作っていくといけないと思います。総合計画ですからある程度体裁を作らないといけない、本音のところばかり書いてはいけないと思うので、そんなに露骨な議論をするところではないと思いますが、産業振興とか、どうやってここに歳入の元になるような産業と雇用を作っていくのかというところを柱にしたものをかなり強く打ち出さないと、8年を見通した計画としては弱いと思います。

鈴村係長 担当としての考えや思いになる部分もあるかと思いますが、協議事項の(2)で紹介をいただきました、まちづくりのサロンで出ている提言の部分に関しましては、6次総策定に町民の皆さんに関心を持っていただきたいという部分の取り組みと8年後こういう町でありたいという部分の提案をいただく形で進めております。

当然、これが実際その事業としてやっていけるのか、先生がおっしゃられた計画の中に町の財政の問題があり、現実的なものとして取り組めるかどうかという部分の議論は必要だと思っております。その部分は本日本体系図をつけておりませんが、策定主任者の会議を作っておりますので、実際の財政的なシミュレーションも含め事業の構築の部分を実践的な考え方として作っていく必要があると思っております。

町民の皆さんから出たアイデアや提言がそのまま具体的な6次総の中に入れていけるかといえばそうではありませんが、5次総の計画の体系を見

たときに、現状とかなり違っている部分がありまして、先ほど未来部の方から発表していただいたように、現在の5次総に当てはまらない部分で必要な項目であったり政策があるので、そこは6次総の基本目標であったり基本政策のところに入れていけるところがないだろうかという思いでこのような体系図とさせていただきました。

会 長 要望を伺うというスタンスでいくと、どうしても何も実現できませんというふうになってしまいがちなので、要望を伺うというよりはどうやっていくのかという部分ですね。

それをそういうスタンスっていうか、ただ要望ということではなくてやっぱり共に作っていくとしたらどういうふうに作れるのかというスタンスっていうのはとても大事なところなのかなと思います。

佐伯副町長 これからの財政は、どうやっても明るい未来はない状況というのは皆さんもそれぞれ想像しておられると思います。

ただこれから先、この町を衰退させてしまうわけにはいかないというのは町民皆さんの思いで変わらないと思います。これから先の8年の計画の中では行政だけでやれない部分がどうしても出てきます。

総合計画の中には、みんなでやれる部分といいますか、住民の方がやっていた部分というところも話し合いの中で出てくるといいのかなと思っております。

もちろん行政としてどうしてもやらなければならない部分がありますので、それも計画の中に入れて、何と言ってもこの町全体のこれからの8年の予算計画等にもこの総合計画というのが一番、元になっていきますので、その部分では町として最も重要な計画になります。

希望を言えば、夢いっぱいの計画、この事ができるといいなという計画が一番いいとは思いますが、書いてみただけでまた4年後、8年後見直した中でやっぱり無理だったという状態のものはいけないと思うので実現可能性があるものは入れる必要もあると思いますし、財政的にどうしても無理なものの中にはあると思います。

そういったところの仕分けをする中でも、町の財政的なものの話はまだ何もしてないのですけれども、先行きのことも見据えていく必要があると思います。

学校の経営ですとか役場の庁舎の移転ですとかそういった中でお金かかることもたくさん出てきます。特に水道はかなり老朽化していますので、町内全部の水道管を本当に今の状態で使っているのか。

それとも本当にコンパクトシティのような形で少し集約をしながらまと

めた形に作り直していくのかというようなこともこの8年でなかなかできないかもしれませんが、考える必要が出てくるのかなと思っております。

財政的などころもお示しをしながら、具体的などころを作っていく必要はあると思っております。

企 画 課 長 町民サロンを通じて行っております意見出しですが、町民の意見を吸収して計画に反映したいという思いの他に、町民自らまちづくりに参加する、当事者意識を促す意味で行っています。

会 長 私は町民サロンの方がどちらかという共同参画的なものを感じましたし、アンケートの方が要望を受けているという感じで受け取りました。

前回いろんな地方創生の交付金を受けた事業や施設も見学させていただきました。率直に言って私の評価はあまり良くなかったです。一番感心しなかったところは豆腐の工場だったと思います。町産の大豆にこだわってフル稼働で生産していないというお話でした。何のために作っていて、何をしたいのかがわかりませんでした。もし私が経営者で投資をして工場を作ったら必死に回転させます。売り上げを作って利益を出そうとします。それで投資を回収しようと思死だと思えます。ところが、町産の大豆にこそこだわって、それ以外は作りませんと言って、週に何日かしか運転していない。これは税金を使っている話ですよと、国のお金使っているからそういうことじゃないですかというのが私の率直な感想でした。

私が会計検査院だったらそういうふうに怒ります。本当何をやっているのだろうというところだと思えます。全体的にビジネスとして成り立っている雰囲気はなかったという印象を持ちました。

色々な事業に関わって色々な経験をしてきた中での感想として、もっとお金に対して真剣に事業をやっているというのが前回の見学させていただいた場所に共通して感じたところでもあります。

ですから、この地域として生業を作っていくということは、ベースとして考えていかないと総合計画案なのでやっぱり産業振興だったら雇用創出というのが柱に来ないと、この計画は成り立たないのではないですかというのが現実的な計画の中に反映可能な意見だろうと思えます。

やはりコンパクト化を考えないといけないでしょうし、上下水道の話とか本当に厳しいと思えます。

人口が相当減っている中で、拡大した地域を維持できるのかということが相当問われてくると思えます。将来に向けてどういう形で整備していくのかということも、ある程度考え始めないといけないところです。8年で無理なことは、どの時点でどういうふうに進み方を考えていくのか

ということをビジョンを持っていないといけないということがあるということなのです。

私の意見としては産業の創出、雇用の創出、どうやって歳入を維持するのかということも計画の柱に置く必要があるということに尽きると思います。

副 会 長 豆腐の話をされましたが、開業当時は、週に5日、時間帯としては早朝4時頃から昼2時までフル稼働していました。

当時から白川町産にこだわり、地産地消を目指してやっています。

原材料のことや人件費の兼ね合いなどを経営者の中で話し合いながら経営しています。

岡 本 委 員 経済的な見通しがきちっとない中で、総合計画を立てるということがかなり大きな問題があると思いますが、安易に一極集中ということもどうかと思います。

白川町には伝統を培ってきた地域がいくつもある。

地域ごとの苦勞や悩みもたくさんあるとは思いますが。

経済効果といいますか、それだけ考えていくと、おそらく河岐を中心とした白川地区に学校、公民館、病院、福祉施設などの公共的な施設が全部集中して、将来的にはそこへみんなが集まってくるような形にすれば効果があると思います。

しかし、安易にやってしまうと、大事なものを失ってしまうと思います。

佐見には佐見の、黒川には黒川の培ってこられた文化がある。

そういうものをやっぱり私達は精いっぱいギリギリのところで考えながら、地域を守っていかなければいけないと思います。

最大限こだわってやってかないと、この白川町という大切な地域が失われてしまうと思います。

学校の統廃合の問題も出てきていて、白川小学校と白川北小学校が統合します。これはこれとして、十分考えられた上で進められていることだと思いますが、安易にすべての学校を白川地区に引っ張ってくると一つの文化の拠点が途絶えてしまうことになる。

ですから私はどこまでできるかわからないけれど、ギリギリのところまで踏ん張るという気構え、心構えがないと文化という面ではさみしいと思います。

確かに経済的なことはそれがなければできないですからもう最悪の事態になっても仕方がないと思いますが、どこも我慢強く頑張れるかっていうのが大切だと思います。

会 長 地域の文化を守る、その前提に立った上でその地域を守るという主張があったとして、では、そのためにどうしたらいいかということで雇用をどうやって作るのかというようなことで両立できると思うので、だんだん論議を積み重ねていけばいいのかなと思います。

やはり効率性だけではなく、その地域の文化を大切にすることは本当に必要なことだと思います。

後藤委員 一極集中について言いますと、伝統文化を守っていくということでギリギリまで頑張るという中でやっぱり行政的にはもう収入が増える見込みはないということをはっきり町民に知らしめていただくということが大切ではないかと思います。地元の清掃作業など町からの補助金なのか草刈機とか何台か買って写真を撮って送ったりしていると思いますが、昔はそんなことはなくても普通にみんなが集まって手弁当で行ってきたと思います。

これについては行政がやると。ただしこれはできませんという取捨選択が一番重要かと思います。

ですから6次総でも5つの柱がありますがある程度優先順位を付けたり、3つに絞るとか大胆なことも必要なかと思います。

日々あれこれやってほしという要求が行政に行くと思いますが、できませんとピシャリと言っていただければいろんな意味で、そんな余裕はないということが町民の方も身にしみるということもあるのかなというふうに思いました。

あと一点、このまま白川町の人口が減っていく場合に、村になるってことはあるのでしょうか。

総務課長 自治体の判断で村になることを選択しない限り、強制的に人口が減って村になるということはないと把握しております。

佐伯委員 竹内先生から経営的な判断という話がありましたが三セクにお金が結構出ていますが経営の見方自体それこそ道の駅をどうしていくのかという話をした際にも、行政側から儲けすぎると税金を納めなければいけないから儲けすぎない方がいいみたいな話が出てしまうぐらい経営に関して意識が低いというのが僕の感想です。やはり財布がなければ出すものは出せないですし、まず払うところから締めていかないといけないと思います。

国の方からも出ていますが関係人口ってありますよね。

人口は減っていきます。商売を新しくやる際に町内向けの商売をやってもなかなかうまくいかないと思います。どんどん人口が減っていくところ

で商売をしても、分母が減っていくわけですから、町内でやるのであれば、外から人を呼べるようなものを作ってかないと駄目だと思います。

それがまさに関係人口というものです。

これに関しては本当に宣伝が命というか、いかに上手くいろんなSNS等で発信していくかだと思います。

最近白川町が舞台になった映画が公開されて、ツイッターでも4,000ぐらいのリツイートがあったようで、実際に町内へもかなりの方が来て、そこでお金を使ってくれる。どうやって自治体に外貨を入れていくか、企業誘致は山間地であり条件が難しいと思いますが、今あるものをうまく発信することによって人を呼ぶことができるといった視点もあります。行政が関わっている第三セクターに関しても本当に経営に対しての厳しい目とちゃんとした経営計画というものを持っていただいて効果を出す。あと、観光にも力を入れて、いかにお金をかけずに関係人口を築いて白川町に訪れる人を増やすというような考え方を、6次総が始まる前にやっていかないと夢も何もない総合計画になってしまうと思うので、会議の内容とそぐわないかもしれないですが、また行政や議員の中で話ができたらいいなと思います。

あとコンパクトシティ化の話も出ましたが、ちょうど今、福祉の方で住宅の話があったり、バイオマスを今後どうしていくかということもありますが、海外では木質バイオマスを利用して沸かしたお湯と電気を使って近くに住宅を建設して、複合すればコンパクトシティができますし、また最近レッドゾーンが増えたりしているようですが、そのレッドゾーン解消するために結構何億というお金が使われるようです。例えばその人たちに優先的に住宅を紹介して、コンパクト化も同時に進めていくということもできるかと思います。関わりのなさそうなことも複合的に考えていくいろいろな可能性があって、議論もできたらいいなと思いました。

会 長 基本的には、企業誘致が難しいだろうから交流産業を振興することで歳入を増やしたらどうでしょうかというご意見だと思います。それから三セクについての経営的な判断というものを強化すべきではないかということでした。

今 井 委 員 現在の白川町の人口は約8,000人、おそらく8年後には7,000人ぐらいになると思いますが、老年人口は55%、生産年齢人口は約40%、年少人口は約5%になるというのもあります。人口の減少に拍車がかかっており、減少ペースは急になってくると思います。このままでは小中学校や水道事業の維持が単独ではできなくなってくる恐れがあります。

このままではどうしたらいいかということで、まず町9割ぐらい占めている森林資源の有効活用、それから町の特産品である白川茶を維持していくために、茶園の団地化を図って乗用機械の導入を進めていく。そして移住支援を進めるために引っ越し代の負担とか雇用先の確保、子育て支援、住宅の確保とかしていくと、もっと移住支援ができるのではないかと思います。

鈴村委員　今の段階で6次総の構想の中で一番大事なことは、いろいろなものを見直すということだと思います。

お金を使って売る、広げるということを考えてきましたが、ここで町の関わっていることを全部見直して数値化するということが必要ではないかと思います。企業誘致ではなくて、ここで産業を起こす人、1人からでも起こす人がキーポイントではないかなということです。

私達の住んでいる地域に映像関係の人がどんどん集まってきているようです。Wi-Fiなどの環境整備をすることが必要かと。

1人社長で台湾とかアメリカでも活躍している人がいますし、今そういう人が何人かこちらで生活したいということです。

ここでも十分仕事はしていけると思うので、そこの辺も考えていこうと思います。

現状把握で一つ思うのは、会議のペット茶です。1本ずつですが、これもお金です。本当に必要かどうかということを見てもらったらどうかと思います。

町へ入ってくる人をとにかく増やしたいということで、新しいものを考えています。白川町グリーンツーリズム協議会を作り、いろいろな産業も含めて、体験型の企画を考えています。

また、白川町からの情報を発信するときにいろいろなことを盛り込みたいですが、予算が課ごと事業ごとにあり、全体像を見たときにどうしてもそのイメージがつかみにくいということを思っていますので見直してもらえるとありがたいと思います。

あとは宮崎県へ行ったとき、コンクリートの道が多かったです。聞くとコンクリートだけは行政で負担し、作業は自分たちで行ったということでした。役場にお願ひすればやってくれるということになってくると、どんどん仕事も増えますので行政と一緒にするようなことももうちょっと考えていけば、そんなにお金はいらないと思います。

いろいろなことで経費を切り詰めていただいて総合計画にも反映していただけるとありがたいかなと思います。

会 長 企業の推進とか若者の誘致、発信のあり方それから、財政規律というかですね、行革的な発想はもうちょっと踏み込んでというようなそういうご指摘だったと思います。

古 田 委 員 河岐地区がなぜこれだけ繁栄してきたかということですが、ほかの地域があつてこそその河岐地区だと思ひます。

ですからそれぞれの地域が成り立つように残していき、今ある企業をいかに守っていくかということを考える必要があると思ひます。それぞれの企業も雇用がどんどん減っていくということで、外国人を増やすと言ひています。

そのためには住宅も確保していく必要があります。今ある住宅を改修しながらできるだけお金をかけずに外国人が住めるような環境も作ろうとしております。

今進められている学校の再編問題も、できるだけ地域に残して、どうやって学校を中心としたいろんな文化を維持していくかということを考えていただきたいと思ひます。それぞれ地域の連絡をよくするためにもまず道路を良くしていただき、あと水道の維持とかお金がどんどんかかっているわけですので、学校再編にしても、庁舎の移転にしてもできるだけお金をかけずにコンパクトなものを作つて、将来残していける、子供たちが帰つてこられるような地域を作つていただきたいと思ひます。

加 藤 委 員 まず一番大事なのは総合計画を作りますということ、町民の皆さんに広く知つていただく。サロンで白川の財政は厳しいということも知つてもらふ。その中でそれでどういふふうになんか答えが出てくるかというのを聞いて、答えた人たちに自己責任を持たせるというのが一つの手かなと思ひます。それが広がっていくと補助金からの脱却にもつながると思ひます。

自立していかないと駄目だと思ひます。補助金からの脱却というのはこの8年間大事ではないかと思ひます。

それともう一つ持続可能事業かどうか検証していただいて、この事業はどうやったら持続していけるのか、この8年間検証していただくといふものが出てくると思ひます。

(4) 今後の進め方について

会 長 (4) 今後の進め方について事務局に説明を求めた。

鈴 村 係 長 資料により説明した。

服 部 委 員 前回は部会のことを発言させていただきましたが、いろいろな方の意見や団体代表で出てきているので、つくる前の段階で今のようないろいろ

意見を聞くだけで、本当に進めるというか、この8年間の計画に役立つ意見が様々出ると思います。審議会委員はあるものに対して質問とか言うだけではなく、参画という意味で、例えば意見出しの場を各団体で必ず持ってもらって、審議会にアイデアを持って参加するような会議の持ち方はいかがでしょうか。

町政に対する評価と今後への期待というところで、農業の振興、商業の振興、林業の振興、観光の振興、町民意見の反映というところの満足度が低くて重要度が高い状態で自分も携わっていてショックでした。

5次総でやってきた農業の振興は何をやってきたのだろうかという検証も含めて、町民の評価というのは厳粛に受けとめて次の計画に反映していかなければいけない部分なので、対話や議論の場を持っていただきたいと思います。

鈴村係長 事務局としては部会の頻度や開催のタイミングは前回の審議会でもその部会の総意で開催できるという話をさせていただいたと思います。今はアンケートの結果もありますし、サロンの開催状況といった材料が揃っていますので、話題にしながら、部会という形で開催していただくことは可能かと思います。

また先ほどのアイデア出しの部分は、皆さんは審議会の委員という立場ですが、それぞれ所属から出てきていただいていますので、所属団体会議を広めていただくという部分では関わりが持てると思っております。

会長 アイデア出しというか2号3号の委員さんは団体を代表して来られていますので、その団体でどういった意見があるのか、問題提起に対してどういった考えを持っているのかということを集約いただくことはできると思います。

個人として来て事務局の説明や提案に対してコメントを述べるということではなくて、その団体として、それに作っていくことに関してどう関わるのかということでご調整いただいて今度の計画のもと、ある程度次回お示しいただくことになると思います。それを作っていく参考にするために、それぞれの団体としてどういうことが可能なのかということについて聴取をするということではできると思うので、部会ということではなくて、事務局からそれぞれの団体に対して、情報提供を投げかけるということではないかなと思います。

田口委員 町議会としての6次総への関わり方や位置づけ、どういうふうに結論を出されていくのか伺いたいと思います。

副会長 議会代表ということで審議会に4名参加しています。

議会の中で、今日伺ったような問題点も取り上げながら、議会や議員会で問題提起しながら、検討して、回答したいと思いますし、最終的にはここで出てきたものを議会で議決するということになりますので、皆さんの声を聞いて、進めていきたいと思ひます。

町 長 閉会にあたりあいさつした。
副 会 長 閉会にあたりあいさつした。
会 長 閉会を宣した。

(午前11時30分)